

第Ⅰ章 研究概要

1 研究主題・副題

1-1 主題 「病弱教育における将来をより良く生きようとする児童生徒の育成」

1-2 副題 ～学ぶ喜びから未来への喜びにつなげる教育活動を通して～

2 今回の研究に至る背景

2-1 学校を取り巻く状況

北海道内2校のみとなる病弱虚弱特別支援学校である本校は、病弱虚弱教育のセンター校として本校関係者はもちろん、全道の特別支援教育関係者への情報発信等の役割を担ってきた。病弱教育における実践の充実と発展は永遠の使命である。その中で、併設の国立病院機構八雲病院の機能移転に伴い、本校も来年度の令和2年夏に移転、手稲養護学校の分校化が決定している。これまで長年にわたり専門的に行ってきた神経筋疾患、特にデュシャンヌ筋ジストロフィー疾患を持つ児童生徒への教育を中心とした病弱教育の指導・実践、病院併設校として培ってきた医療に関わる知識や連携力など、病弱教育の専門性の集積及び移転先への維持・継承は本校の喫緊の課題となっている。

また、教育界の今日的課題として、新学習指導要領への改訂が各学部ともに差し迫っており、新学習指導要領の全職員の理解と教育課程等への反映も念頭に置く必要がある。

2-2 これまでの研究の流れ

この数年間、本校の研究としては、「PATH」を使った将来につながる指導実践研究（H25）、各教科の指導内容表整理（H26・27）、病弱教育の「専門性」の分類と「育てたい力（身につけさせたい力）」の整理（H28・29）など、病弱教育における児童生徒一人一人の実態に即した指導・実践の整理と集積を図ってきた。この研究の流れを踏まえるとともに、これまでの研究成果を生かす教育実践につなげたい。

2-3 児童生徒の状況

本校は病院併設校であり、児童生徒の大半は体調や身体の状態等の理由から入院を選択し、本校へ中途転入や、高等部の1年から入学をしてくる場合がほとんどである。

学習面では、心肺の状況や筋力の低下により、体育では見学や別メニューでの学習になり、座学では筆記への負担、発達障害的特性からくる理解度への負担感があり、それまでの学校生活や学習環境では周囲との差や壁を感じ、自尊感情や自己有用感が低下している場合がある。学習空白のある者もいる。

生活面では、病院及び学校には大人の目がいつもあるが、身体的に多くの介助を必要とし、してほしいことを他者へ依頼することが常に必要となっている。また、学校卒業後は病院に継続療養のため残る者が大半である。療養生活ではあるが、その中でどのように生活し、どのような活動を行っていくのか、在学時に進路に関する学習を行っている。

3 研究の目指すところ

3-1 主題・副題設定の理由

学校が目指すものは将来の生活に「生きる（活かせる）力」を育てることである。本校の児童生徒の状況から、現状ばかりでなく将来の生活をより良く過ごすために、自身の主体性が欠かせない。児童生

第Ⅰ章 研究概要

徒自身が将来、継続療養（入院）という状況でも主体的に行動し、本校の「目指す人間像」に近づいた知識・技能を発揮し、学校教育目標にある「自らの可能性を生かして心豊かにより良く生きよう」としていくことを目指し、主題を設定する。

また、それまでの学習環境で見学教科等のあった児童生徒が、本校では見学することもなく、自己効力感を感じ、目を輝かせて学ぶ喜びを感じている者も多い。そんな児童生徒に、本校に来て感じた「できる」「できた」という「喜び」を、将来の生活でも感じられるように生きてほしい。将来の「できる」「できた」のために、これまでの校内研究の成果を生かし、新学習指導要領の求めに応じた教育活動の整理・実践を目指し、副題を設定する。

3-2 研究の目的

- (1) 児童生徒の将来の生活に「生きる（活かせる）力」の整理と育成する環境の整備を図る。
- (2) 「できる」授業実践から、将来の「できる」という主体性につなげるキャリア発達実践を図る。
- (3) 本校の病弱教育専門性の向上、実践の維持・継承、集積されたものの活用の活性化を図る。
- (4) 新学習指導要領への理解を深め、教育課程への反映整備を行い、対応した教育実践準備を図る。

3-3 研究の仮説

将来に求められる力を明確にし、本校の教育実践をこれまでの研究成果と新学習指導要領をふまえてさらに昇華させ、「できる」という喜びを感じさせられる教育実践を行うことで、主体的に生きる姿勢が身につく、将来の生活に「生きる（活かせる）力」が育まれ、より良く生きようとする児童生徒が育成できるのではないかと。

4 研究内容及び手立て

4-1 学校が目指すものの明確化（H30 年度研究）

- (1) 新学習指導要領の理解
 - ・ 指導要領理解に向けた研修：指導主事講義
 - ・ 改訂に向けての本校の課題抽出と解決方策検討：グループ協議
 - ・ 教育課程への反映方法検討
- (2) 児童生徒の将来の生活に「生きる（活かせる）力」の検討・整理
 - ・ 病院の生活に関する研修・卒業後の活動に関する研修
 - ・ 児童生徒理解に向けた研修・協議：アセスメントの基礎研修・筋ジストロフィの特性の共有
 - ・ 「目指すもの」の検討と共有：児童生徒の目指す「志」および八養版「社会人基礎力」の作成
 - ・ 「志」及び八養版「社会人基礎力」の各教科等との紐付け、各教科の目標確認

4-2 「できる」を目指した授業実践研究（R1（H31）年度研究）

- (1) 新学習指導要領を踏まえた実践準備
 - ・ 「志」及び八養版「社会人基礎力」の実践への導入
 - ・ 学部のグランドデザイン作り：学部協議
- (2) 「できる」「できた」喜びを感じられる授業実践や活動の検討・実践・まとめ
 - ・ 個別（グループ）の授業実践研究：新指導要領に対応した「フレームシート」による検討・実践
 - ・ 研究授業
 - ・ 成果と課題の整理：グループ協議・全体共有・今後への準備

第Ⅰ章 研究概要

5 評価

- ・児童生徒評価アンケート及び職員評価アンケート
- ・最終的なグループ協議及び全体協議

6 校内研究推進計画

平成30年度

研究回	月	日	曜	研究・研修内容（○研修 ●研究）
第1回	4	27	金	●研究概要・計画説明
第2回	7	13	金	○講義：新学習指導要領の理解 ●協議：実施に向けた課題検討
第3回	8	24	金	●協議：課題解決「生きて働く力」に向けた取り組み検討
第4回	9	14	金	○講義：OTの意義やOT室での活動
第5回	9	28	金	○講義：入院生活や求められる力の理解
第6回	10	12	金	○講義：「アセスメント基礎講座」 ●協議：「筋ジスあるある座談会」
第7回	10	19	金	○講義：新学習指導要領補足資料の解説 ●協議：目指す「志」検討
第8回	10	26	金	●協議：八養版「社会人基礎力」の作成
第9回	11	9	金	●協議：行事目標と八養版「社会人基礎力」との紐づけ整理
第10回	2	14	金	●協議：教科の目標確認、八養版「社会人基礎力」との紐付け整理
第11回	3	8	金	●まとめ：今年度の取り組みと成果の確認・来年度の計画

令和元年度

研究回	月	日	曜	研究内容（●研究・☆研究授業）
第1回	4	15	月	●研究概要・計画説明
第2回	5	24	金	●協議：学部グランドデザイン検討1
第3回	5	31	金	●協議：学部グランドデザイン検討2
第4回	6	14	金	●協議：授業の年間単元計画一覧表作成
第5回	7	8	月	●実践研究1：研究教科単元決定
第6回	7	12	金	●実践研究2：単元計画検討①（個人／グループ検討・相談）
第7回	7	23	火	●実践研究3：単元計画検討②（個人／グループ検討・相談）
第8回	9	13	金	●実践研究4：実践準備／実践相談
第9回	9	19	木	●実践研究5：実践準備／実践相談（予備日）
第10回	10	4	金	●研究授業準備：担当者以外支援者として助言
第11回	10	11	金	☆研究授業 ●協議：支援会議
第12回	11	22	金	●実践研究6：実践相談／グループでの結果整理・まとめ
第13回	12	13	金	●グループ協議：成果と課題の検討
第14回	1	28	金	●全体協議：課題解決に向けて
第15回	3	2	金	●まとめ：研究紀要解説